

## 足利義晴

室町時代後期(戦国時代)の室町幕府第15代将軍(在職1521-1546)。第11代将軍足利義澄の長男。母は日野永俊の娘で日野富子の姪。義晴の父・義澄は、第10代将軍だった足利義植が大内義興によって擁立されて上洛してきた時、近江の六角高頼を頼って落ち延びていたが、その最中の永正8年(1511)3月5日、義澄の次男として近江朽木で生まれた。しかし、父は義晴が誕生した年の8月14日に朽木で死去している。永正10年(1513)2月14日には義植陣営と義澄陣営は和睦したため、義植の将軍職が確定していた。このため、永正11年(1514)、義晴は播磨に下向し、赤松義村の庇護を受けて養育された。

大永元年(1521)3月7日、管領細川高国と対立した義植が京都を出奔して、同月22日に行われた後柏原天皇の即位式に出仕しなかったために高国が警固の職務を行った。これによって天皇の信任を失った義植の放逐を決意した高国は代わりの将軍として義晴を擁立することを決める。7月6日、義晴は高国に迎えられて上洛、8月29日に代始の参賀を行った。朝廷は高国の判断を受け入れ、11月25日に右馬頭任官、12月24日に義晴の元服が行われ、翌25日第12代将軍に補任された。

### 近江幕府(桑妻寺など)

大永6年(1526)、高国が家臣の香西元盛を殺害して細川氏で内紛が起ると、高国と対立していた細川晴元は、三好元長の援助を受けて義晴の弟・足利義維を擁立して高国と戦う。さらに元盛を殺したことで元盛の2人の兄波多野植通や柳本賢治らが高国から離反し、大永7年(1527)に桂川原の戦いで高国が破れると、実権を掌握した阿波の国人、

三好元長や細川晴元らが入京。義晴は高国や武田元光を伴い近江に逃れた。

享禄元年(1528)には朽木植綱を頼って朽木(興聖寺)に落ち延び、若狭の武田元光らの軍事力を背景に、三好元長らが擁立した堺公方・足利義維と対立した。しかし享禄4年(1531)、高国は中嶋の戦い及び大物崩れで敗れて自害する。

戦後、今度は晴元と元長が対立。そして、天文元年(1532)に元長が晴元と手を組んだ一向一揆によって討たれた後(享禄・天文の乱)、京都より近江の観音寺城山麓桑実寺境内に約3年にわたり幕府を移す。それは朽木のときとは違い、奉公衆奉行衆を引き連れた本格的な幕府の移転であった。

天文3年(1534)中には六角定頼・義賢父子の後援を得て晴元と和解し、帰京した。しかし、その後も晴元と対立して敗れたのち、和解して帰京するといった行動を繰り返しており、天文10年(1541)には近江坂本に逃れ、天文11年(1542)には京都へ帰還。天文12年(1543)には近江に再び逃れるなどしている。

### 将軍職譲渡と最期

天文16年(1547)、義晴は北白川の瓜生山城に入城したが晴元と対立して敗れ(舍利寺の戦い)、近江坂本に避難した。このときに嫡男足利義輝に将軍職を譲り、以後は大御所として幼少の義輝の後見人となった。その後、晴元と和睦して義輝と共に京都に戻るが、天文18年(1549)には晴元と晴元の重臣・三好長慶が対立。晴元は敗れ(江口の戦い)、義晴は義輝と共に近江朽木谷に逃れた。

天文19年(1550年)5月4日、近江穴太(現滋賀県大津市穴太)にて死去。享年四〇(満39歳没)。

将軍としては、側近集団を内談衆として再編成して政権中枢に置くことで自己の親裁権の強化を図り、足利義満以来続けてきた日野家との婚

姻關係に代わって近衛家出身の正室を迎えて朝廷との關係強化を図るなど、將軍權威の回復に努めたが、細川氏の内紛をきっかけにした大規模な争乱によって挫折することになった。

義晴の偏執を受けた人物

一色晴具・赤松晴政・畠山晴熙・細川晴元・細川晴之・細川晴国・細川晴経・足利晴氏・足利晴直（上杉憲寛）・尼子晴久・荒川晴宣・有馬晴純・伊東義祐・今出川晴季・大館晴忠・富樫晴貞・大館晴光・大友義鑑・大友義鎮・北畠晴具・二条晴良・大内晴持・日野晴光・日野晴資・近衛晴嗣（前久）・相良晴広・相良義滋・進士晴舎・諏訪晴長・千秋晴季・曾我晴助



土佐光茂筆足利義晴紙形(日本の美術 12より)

**桑実寺** 滋賀県近江八幡市安土町にある天台宗の寺院。山号は叡山

(きぬがさやま)、本尊は薬師如来、開山は定恵。別名桑峰薬師。

創建

標高433メートルの叡山(観音寺山)の中腹にあり、西国二十三箇所観音霊場の32番札所である観音正寺へと登る途上に位置する。

寺伝では、天智天皇の四女、阿閉(あへ)皇女(元明天皇)の病氣回復を僧に祈らせたところ、琵琶湖から薬師如来が降臨し、阿閉皇女の病氣を治して去り、それに感激した天智天皇の勅願により、藤原鎌足の長男、定恵が白鳳6年(677年)に創建したと伝えられている。寺名は、定恵が唐から持ち帰った桑の実をこの地の農家にて栽培し、日本で最初に養蚕を始めたことに由来する。

室町幕府

1532年には室町幕府12代將軍足利義晴が、ここに仮の幕府を設置。のちに15代將軍足利義昭も滞在する。

安土城桑実寺事件

一時期荒廃していたが1576年、安土に居をかまえた織田信長によって保護された。1582年には、安土城の女中たちが信長の留守中に禁足を破って参拝に訪れたことを信長が咎めて、女中たちと擁護した桑実寺の高僧たちを殺害するという事件が起きた。

文化財

重要文化財本堂―室町時代初期、檜皮葺き

紙本着色桑実寺縁起絵巻(二巻、附・後奈良天皇宸翰題籤(しんかん・だいせん)及び消息 絵巻の絵画は土佐光茂(みつもち)筆。將軍足利義晴から寄進された。(京都国立博物館寄託所蔵)『続日本の絵巻24 桑実寺縁起 道成寺縁起』(小松茂美編、中央公論社、1992年)に詳しく紹介。